

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ストーリー(放課後等デイサービス)				公表日	R8年 4月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分なスペースを確保しており、療育、自由時間でスペースを分ける等配置を工夫している。	今後も安全面に配慮しながらスペースのレイアウトの工夫、確保に努める。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		適切に配置されており、規定以上で余裕のある人員配置になっている。	今後も状況に応じ、適切な職員配置を行う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		スケジュールボードにカードを用いたり、床にはテーブルを利用したりすることで可視化されている。ドアロックはドアの上部にある。	必要に応じてより子どもたちに分かりやすく可視化できるよう努める。多少の段差が生じるため、緩和を検討したい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日清掃を行い定期的に消毒を行っている。机は配置を考え心地よい空間を作っている。	感染症対策として、消毒の機会を増やしより清潔な環境づくりを心がける。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンが必要な場合やフロアでの集中が困難な場合に使用できるようにし、その際は職員の配置も行っている。	個別対応に考慮しながら全体の支援も十分にできるよう、職員配置等工夫する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		改善に向けて前日の振り返り、話し合いを行っている。また効率化に関する会議も行っている。	改善策をもとに問題解決したかどうか、最終の確認まで行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		アンケートや懇談会を通して保護者様の声を聞く機会を設けている。	改善策を考えるだけでなく、実行後改善点についての振り返りも行い全体で共有する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングや研修を行い、お互いに発信しやすい環境を整えている。出た意見は速やかに取り入れている。	全体に共有後、周知できているかどうか確認の場も設ける。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		外部からの意見を受け止め、職員間で共有し業務改善に努めている。	さらなる業務改善に向けて、外部評価をもとに全体で共有、話し合いの場を設ける。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年間計画に基づき、全法人での研修の機会を多数設けている。	専門性の高い支援、業務が行えるよう、より積極的に専門家を招いての研修の機会を計画する。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		既存のプログラムを洗い出し把握のうえ5領域をもとに作成し、通信や予定表にて公表している。	作成した内容について、より分かりやすく公表できるよう検討していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者様と面談を行い、新たに出た課題は都度アセスメントを行いニーズも含め支援計画に反映させている。	より一人一人に合った支援計画を作成できるよう努める。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		サービス担当者会議と位置付けて計画作成前後に共有を行い、必要な支援案を話し合っている。	疑問点は事前に全て解決し、共通理解のもと支援を行う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画作成後、保護者様の承諾を得て職員間で共有し、支援を行う際も常に手元に置いて支援している。	支援を行う中で難しい点が生じた際は、速やかに共有し見直しを行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		各児童に合ったツールを使用しアセスメントを行っている。日々の療育の様子も含めてアセスメントしている。	子どもの状況を理解、把握する機会をより多く持つ。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに沿って支援を行うべく、本人支援、家族支援等を踏まえたくらうでニーズに沿って支援内容を設定している。	全職員が見て同じ支援が行えるよう、より分かりやすい支援計画の作成を行う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月に一回チームで案を出し合い全体で具体的な活動の立案を行っている。	今後もPDCAサイクルに基づき、チームで話し合いを行う。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎月新しい活動内容を取り入れ、活動の項目が重ならず様々なねらいが達成できるよう計画している。	子どもたちの強みを活かすことができたり困りごとを減らしたりできるようなプログラムを取り入れる。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別、集団でそれぞれの療育をバランスよく組み合わせ実施している。	より子どもの状況や保護者様のニーズに合わせ、支援計画を作成し支援を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		チームで支援を行うにあたり打ち合わせを行い、役割分担をチームリーダーが率先して指示し連携を強めている。	より連携して支援を行えるよう、役割分担を明確に行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		その日あった問題点や支援において難しかった点を共有し、話し合いのもと改善できるようにしている。	話し合った内容は必ず共有し、よりよい支援につなげられるよう努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援計画に沿って毎日支援記録を取り、共有したり改善したりしている。	どのような支援を行ったか、支援計画に沿って具体的に詳しく記録する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に一回モニタリングを行い、全職員で見直し、共有を行っている。	見直しの際は、主観的な意見ではなく記録をもとに適切に見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		地域交流を除く3つの基本活動を組み合わせ支援を行っている。	地域交流について実現に向けて検討し、環境調整などに考慮する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		自己選択、自己決定を尊重しつつ必要に応じた支援を行っている。	支援内容確定後も、本人や保護者様の意見を尊重し支援に取り入れる。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの状況をよく理解した適任の者が参画し、その後職員間で共有を行っている。	会議の内容を全員が把握できるよう、共有できたかどうかの確認を行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じ連携できるよう、体制を整えている。	速やかに連携できるよう、より体制を整えておく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校行事による下校時刻の把握や、必要に応じて学校での利用者様のご様子の共有も行っている。	交通渋滞等による遅延などについて、速やかに連絡できるよう努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		必要に応じ連携を図り、情報共有と相互理解に努めている。	情報共有後、保護者様のニーズとあわせて支援に活かせるよう努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		必要に応じて、これまでの放課後等デイサービスでのご様子や支援内容について共有している。	今後も必要に応じ移行先との連携を図り、個人情報に配慮のうえ情報提供を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		必要に応じて連携を図り、助言や研修を受ける機会を設けている。	今後も積極的に助言を受け入れる機会を増やしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	現在機会はなく、保護者様のご要望に応じ検討していく。	今後保護者様からの要望に配慮し機会を検討したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		適任の者が参加し、支援方法等外部との連携や相談の機会を設けている。その後職員間で共有している。	今後も日程調整のうえ参加できるよう体制を整える。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日々保護者様と連絡帳を通じてやり取りを行い、必ずお伝えしないといけない事項については職員間で共有し伝達している。	必連絡が必要な情報を確実に速やかに伝達するために、職員間の共有をより強める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	必要に応じて家族支援を行い、ご相談には常に応じている。ペアレントトレーニングは現在実施していない。	今後もペアレントトレーニングの実施に向けて検討を重ねていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約や面談時に詳しく説明している。	保護者様一人一人に過不足なく詳細をお伝えし、今後も情報発信に努める。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		アセスメントを行い、保護者様からのニーズや専用ツールを通して見てきた課題についても取り入れ同意を得ている。	支援を行う中で続行が難しい点が出てきた場合は、現行の支援で良いかどうか速やかに利用者様、保護者様にご意見を求める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		作成した支援計画の原案をもとに保護者様に丁寧に説明し、必ず同意を得ている。	利用者様の状況や保護者様のニーズに応じ、必要であれば支援内容の見直しを行う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談時以外でも常にご相談等に応じている。支援計画見直しの際には困り事等ひらきしている。	速やかな対応、適切な助言が行えるよう今後も職員間で体制を整えておく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	現在保護者様同士の交流は行っていない。	保護者様からのご要望に応じ、保護者会等の開催について検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	いただいたご意見は職員間で共有し、速やかにご連絡できるよう努めている。	保護者様への対応の結果も職員間で共有を行う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	月に一回通信を配布し、活動等のご様子をお伝えしている。HPを用いた情報発信も検討している。	HP,SNS等を活用した情報発信についても検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	研修等を通じて十分に認識できている。利用者様の名前が入った用紙はシュレッダーで破棄する等徹底している。	今後も守秘義務を徹底し十分留意していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	個別に用紙に記載したり、ゆっくり分りやすくお話ししたり、カードを用いたりするなど視覚ならびに聴覚支援を行っている。	今後も必要に応じ、伝わりやすさを配慮した伝達方法を取り入れる。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	現在検討中である。	保護者様のご要望に応じ、今後実現できるよう検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	マニュアル作成後、周知をかねた研修や訓練を行っている。保護者様には通信を配布しお知らせしている。	より保護者様にも周知していただける方法を検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	計画作成後、定められた通りに研修や訓練を実施している。	職員のみでなく利用者様も一緒に参加できる訓練の機会の確保を調整する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	面談時に確認し、支援計画に記載のうえ職員間で周知し、対応方法も共有している。	子どもの状況に応じ速やかに対応できるよう、今後も個人情報に留意しながら職員全体での周知を徹底する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	面談時に確認、把握し、おやつ提供や調理の際は十分に配慮している。	アレルギー他いかなる状況にも速やかに対応できるよう、今後も職員間での周知を徹底し体制を整える。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	安全計画作成後、研修を行い定期的に意識を強めている。	研修や訓練の内容を職員が周知できているか、実施後の確認も行いより安全管理の徹底に努める。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	連絡手段や緊急連絡先の確認を保護者様に取り、内容等については通信にてお知らせしている。	全ての保護者様に向けてお知らせできるよう、HPやSNS等他の手段を用いた伝達方法も検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	毎日ヒヤリハットを記録し、毎月担当者による研修が行われている。担当者は集計データをもとに月毎の課題を分析している。	今後も起こりうるヒヤリハットのケースについては複数回に分けて研修や話し合いを行い、よりよい対策を練る。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	年間計画に位置付け虐待防止委員会を中心に研究を行い、虐待防止に努めている。	今後も虐待にあたる行為なく支援を行うことができるよう周知徹底の機会を増やし、より意識を強める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	必要に応じて保護者様に事前の説明、同意を得て対応できる体制を整えている。身体拘束適正化委員会を中心に研修を行っている。	現在身体拘束を行う必要のある児童のご利用はないが、必要に応じて保護者様に確認、同意を得て適切な対応を行う体制を整える。	